竹敷遺跡

筑紫野市文化財調査報告書
第30集

発行　筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市753－1

印刷　株式会社川島弘文社
福岡市東区箱崎ふ頭6丁目6－41

竹敷遺跡　筑紫野市文化財調査報告書　第30集　筑紫野市教育委員会

竹　敷　遺　跡

筑紫野市大字永岡所在遺跡の調査

筑紫野市文化財調査報告書
第　30　集

1991

筑紫野市教育委員会

序

本市は、福岡市のベッドタウンとして近年急速に宅地化が進み、大規模な開発から小規模な建築まで多種多様の工事が行われ、しだいに都市化しつつあります。

今回の発掘調査で、竪穴状遺構や溝が発見されたことと、近くに永岡遺跡や常松遺跡などがあることなどから、近くには数多くの遺跡がまだ眠っていると思われます。そのような後世へ伝えていくべき義務を負う文化財を保護するため、今後とも努力を重ねていく所存でございます。

なお、今回の調査にあたりご協力を賜わりました関係各位の皆様方に深甚の謝意を表すとともに、今回の成果が市民の文化財に対する認識と理解の一助になれば幸いに存じます。

平成3年3月31日

筑紫野市教育委員会
教育長　永　渕　正　敏

例　　言

1．本書は、開発行為に伴い、筑紫野市教育委員会が平成2年度（1990）に実施した福岡県筑紫野市大字永岡845-1外に所在する遺跡の緊急発掘調査の報告書である。
2．調査は、ニシム電子工業株式会社の委託を受けて筑紫野市教育委員会が実施した。
3．現地での発掘に係る実測および写真撮影は向田雅彦が担当し、さらに朝日航洋株式会社に写真測量を委託した。
4．製図は森田くみ子が行なった。
5．本書の執筆はⅠを奥村俊久が、Ⅱ～Ⅳを向田が担当し、編集は向田が行なった。

目　　次

頁

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
Ⅱ．位置と環境 …… 1
Ⅲ．調査の内容 …… 6
Ⅳ．小　結 …… 7

Ⅰ．調査に至る経過

平成２年２月３日付けで開発に伴い都市計画課から文化財係に協議があった。当該地は周知の遺跡にあたるため、市教育委員会では試掘調査による埋蔵文化財の包蔵状況の確認が必要な旨を連絡した。試掘調査の申請を受け同年２月17日に実施し、ピット等の検出を確認した。事業者からの文化財保護法第57条の２第１項の届出を５月８日付けで受理し、直ちに進達した。６月８日には福岡県教育委員会から事前に発掘調査を実施する旨の通知があり、市教育委員会ではこれを申請者に伝えるとともに、発掘調査の実施についての協議を行い、平成２年７月19日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約書を筑紫野市と締結し、発掘調査を開始した。

調査組織	総　括	筑紫野市教育委員会	教　育　長			永渕正敏
	庶　務	筑紫野市教育委員会	社会教育課	課　　長		川原　孝之
			社会教育課	文化財係	係長	山野　洋一
					主事	奥村　俊久
	調　査	筑紫野市教育委員会	社会教育課	文化財係	主事	奥村　俊久
					嘱託	向田　雅彦

Ⅱ．位置と環境（第１図・第２図）

筑紫野市は福岡市の南約19㎞の所にあり、竹敷遺跡付近は福岡平野と筑紫平野の接点に当り、東に背振山塊、西に三郡山塊の接近する平野部が非常に狭まるところである。三郡山塊の一つである宝満山を源とする宝満川が筑紫平野を南下する。この宝満川西側に沿って背振山塊より派生する低丘陵が広く展開しており、その一角に竹敷遺跡も位置している。

今回の調査では弥生時代の遺構は確認できなかったが、当遺跡の東側には谷を挟んで弥生時代の甕棺墓群である永岡遺跡[註1]が所在し、南東側も同様に谷を挟んで弥生時代の住居跡、甕棺墓、溝が発見されている常松遺跡[註2]が所在していることなどから、ヤツ手状に展開する各丘陵上にそれぞれに独立した集団が占拠していた状況が想定できる。

註

註１『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』 第１集　1970　福岡県教育委員会
『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』 第４集　1976　福岡県教育委員会
『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』 第５集　1977　福岡県教育委員会
『永岡遺跡』 筑紫野市文化財調査報告書　第６集　1981　筑紫野市教育委員会
『永岡遺跡Ⅱ』 筑紫野市文化財調査報告書　第26集　1990　筑紫野市教育委員会
註２『福岡県筑紫群筑紫野町常松遺跡調査報告書』 別府大学文学部考古学研究報告書　1　1970　別府大学文学部

第１図　竹敷遺跡周辺遺跡分布図

1．カケ塚遺跡
2．大曲遺跡
3．針摺遺跡
4．野黒坂遺跡
5．イカリノ上遺跡
6．上ノ浦遺跡
7．峠山遺跡
8．御笠地区遺跡Ｃ地点
9．御笠地区遺跡Ｄ地点
10．御笠地区遺跡Ｅ地点
11．御笠地区遺跡Ｆ地点
12．御笠地区遺跡Ｇ地点
13．阿志岐古墳群
14．宮崎遺跡
15．シメノグチ遺跡
16．脇道遺跡
17．脇道古墳群
18．老松神社古墳群
19．天山古墳群
21．俗明院跡
22．日焼遺跡
23．鞭掛遺跡
24．大牟田西遺跡
25．大牟田東遺跡
26．竹敷遺跡
27．永岡遺跡
28．常松遺跡
29．城山遺跡
30．木山遺跡
32．薬水古墳群
33．倉吉遺跡
34．名越古墳群
35．矢倉遺跡
20．31．は散布地

第２図　竹敷遺跡周辺地形図（縮尺１/2500）

第３図　竹敷遺跡遺構配置図（縮尺１/200）

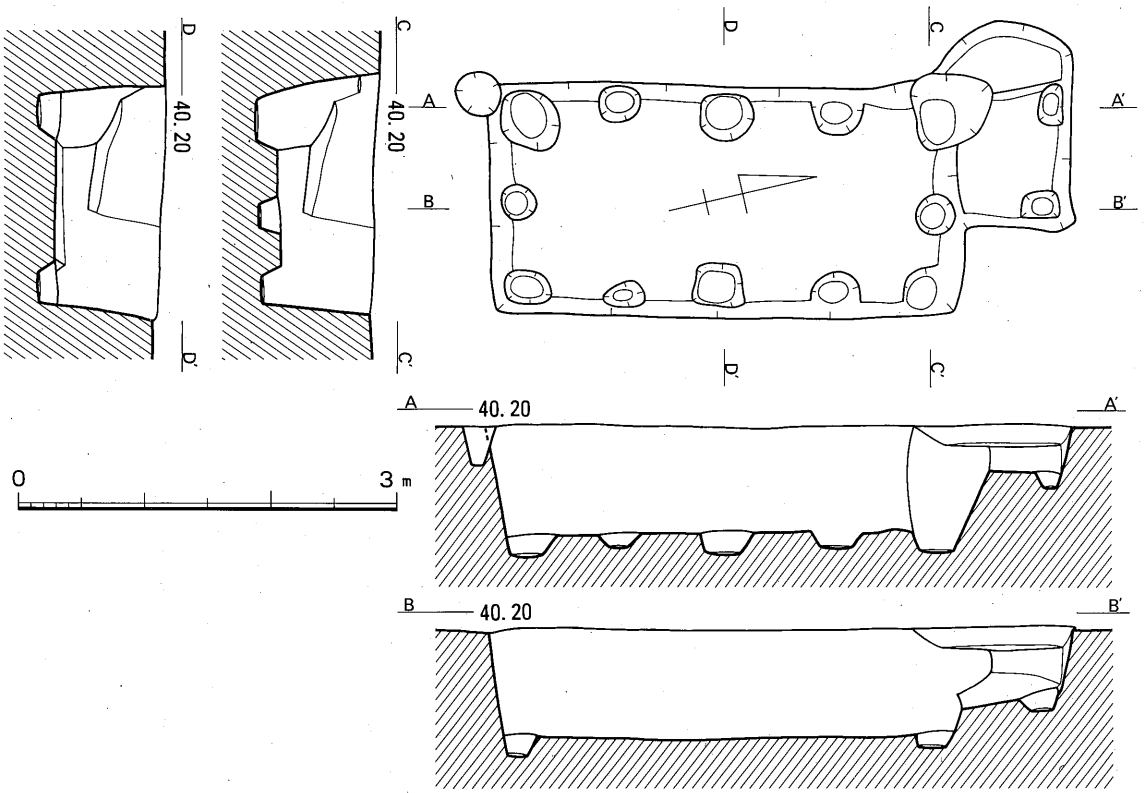
Ⅲ．調査の内容

調査概要（第３図、図版－１）

開発予定地約1500㎡の内、西側の一部を残し約1350㎡の発掘調査を実施した。調査区は既に造成され、中央部で東西に約30～40㎝程の標高差があり、建造物等による遺構面の撹乱も多く、遺構密度も薄く遺構として確認できたのは、おそらく何らかの建物が建っていたであろう竪穴状遺構１基と溝状遺構４条およびピットを検出するにとどまった。

竪穴状遺構（第４図、図版－２）

調査区の南東部に位置し、主軸方位をN-13°-E（真北）にとる。主要部分の平面形態は長方形で、南北長約3.8m、東西長約1.8m、深さ約0.9mを測る。この北側に南北長約0.9m、東西長約1.1m、深さ約0.4～0.6mを測る方形の平面プランを持つ一段高い部分があり、床面は東に低く傾斜している。さらにその西側に平面プランが長方形で、南北長約1.0m、東西長約0.5m、深さ約0.2mを測るもう一段高い部分からなっている。主要部分は床面のそれぞれのコーナーに径約40～60㎝、深さ約20㎝の柱穴を持ち、東西の両壁面の中間に同規模の柱穴がもう



第４図　竪穴状遺構実測図（縮尺１／60）

一本ある。さらにそれぞれの柱穴の中間に一本ずつ少し小さめの柱穴（径約30～40㎝、深さ15㎝前後）が、南北に並ぶものが約80㎝、東西に並ぶものが約70㎝の間隔で配されている。北側の一段高い部分の床面にも北壁の両隅に径約30㎝、深さ約15㎝の柱穴が主要部分と相対して配されている。西側の最も高い床面部分には柱穴はなく入り口部分とも思える。

出土遺物がなく、遺構の性格や時期などの確定はできなかった。

溝状遺構（第３図）

西側の高い調査区の中央部から南部にかけて、北西方向に軸を取るものが３条と東西方向に取るものを１条検出した。北西方向に取るものはほぼ平行に走り、３条とも埋土が黒灰色土と同一であったためほぼ同一時期のものと思えるが、時期等を特定できる出土遺物等はなかった。また、東西方向に走る溝は埋土が暗灰色土で他の３条とは異なり、かなり新しい時期のものではないかと思える。

Ⅳ．小　結

今回の調査では、溝状遺構とピットから陶器片、土師器片、弥生土器片等が若干出土したが、いずれも小片で時期や性格を明確に決定し得るものではなかった。また、竪穴状遺構についても時期等の特定はできなかったが、何らかの上部構造物と階段状の入り口部分を持つ半地下式の建物跡ではないかといえる。

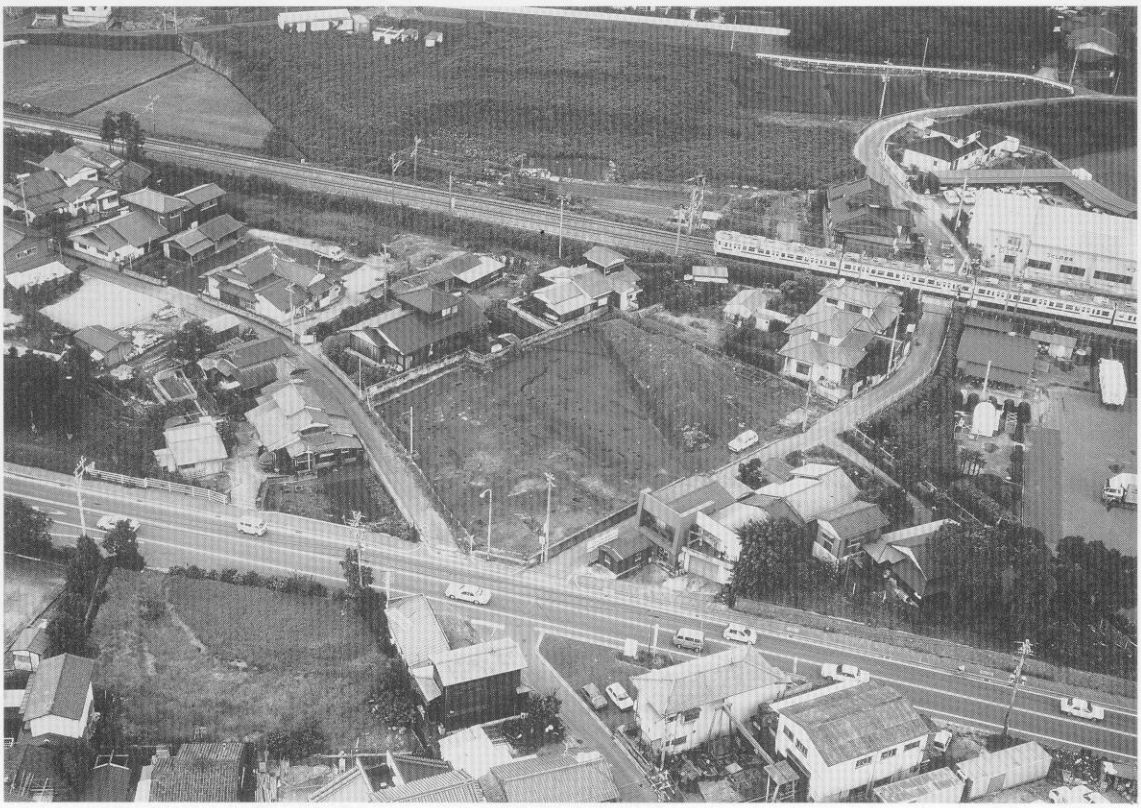
東に永岡遺跡[註1]、南東に常松遺跡[註2]が隣接し、小谷を挟んで相隔てているかに見えるが、本来一つの遺跡として取り扱われるべきであり、村落の形態、住居地区と墓地とのあり方などを知るに欠くことのできない遺跡郡が周辺の丘陵地には残されており、今後の周辺部の調査例を含めその解明に期待したい。

註

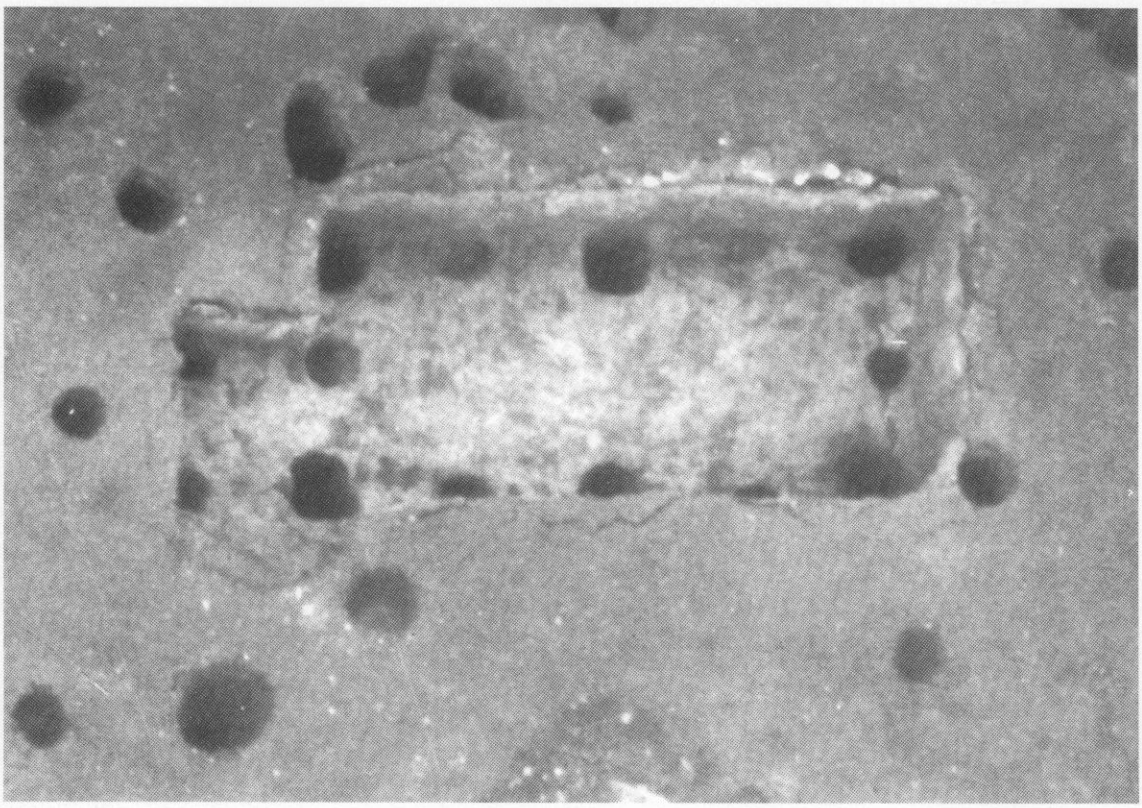
註１『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』 第１集　1970　福岡県教育委員会
『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』 第４集　1976　福岡県教育委員会
『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』 第５集　1977　福岡県教育委員会
『永岡遺跡』 筑紫野市文化財調査報告書　第６集　1981　筑紫野市教育委員会
『永岡遺跡Ⅱ』 筑紫野市文化財調査報告書　第26集　1990　筑紫野市教育委員会

註２『福岡県筑紫群筑紫野町常松遺跡調査報告書』 別府大学文学部考古学研究報告書　1　1970　別府大学文学部

調査区全景



調査区遠景（北東から）



竪穴状遺構